

# (財) 熊本県青年会館 平成25年度 事業報告

平成25年度は、デフレ脱却をめざす安倍内閣による景気回復への取り組みもあり、平成24年度の前半からの円高、株価安から一転し、円安、株価高が進行して、大手企業の好調にも支えられ、国内経済の回復の兆しが確実となりました。

このなかで、平成26年4月から消費税の改正が8%へと実施されるため、実施後の景気の冷え込み対策や低所得者層への対応策などが進められました。

一方、2020年に2回目となる東京オリンピック開催が決定したため、我が国の新しい国家目標にもなり、また、スポーツへの関心も一段と高まり、今後、国民の英知が結集されることとなります。

熊本県では、前年の7.12の九州北部豪雨の災害復旧も一段落し、農業振興はもとより、少子高齢化の時代への対応策を含めた地域振興策が課題となっています。

本年度の会館利用では、上期の利用が好調でしたが、下期には一段落したため、前期の3,919万円から4,043万円と3.16%増加しました。料理収入でも前期の1,325万円から1,462万円と3.39%の増となり、これまでに毎年減収が続いてきましたが、景気拡大の影響もあったのか、宿泊利用増加を中心に、やっと停止したようにも受け取れます。

他方、本年では会館施設の老朽化もあり、空調設備や消防設備、厨房備品の改修に追われ、約348万円の設備備品購入や営繕を実施しました。今後も設備改修や営繕支出は避けて通れません。

青少年事業の助成金交付では、県下勤労青年の一大祭典や青年問題研究集会に取り組む熊本県青年団協議会に対して助成金交付を実施しました。今後の助成では、本年2月に第一回会館事業実施委員会を開催して、助成交付の基本方針を策定しました。会館として青少年事業助成金交付の内容を充実させていくことが一段と求められます。

そのほか、会館利用の青少年や青少年団体、地域団体の施設利用に低料金での貸し出し、3年目を迎えた毎週日曜朝の「おはよ一朝市」の開催、若者の婚活を支援する「でいあYELL」開催の支援を継続致しました。

さて、当法人で平成20年から取り組んできました公益法人改革における新法人への移行については、最終的に昨年6月に一般財団法人への移行認可申請を行い、平成25年11月、熊本県公益認定等審議会の認可答申が実現、平成26年3月19日に、熊本県知事名による認可書を正式に受理しました。

このため、平成26年4月1日に財団法人熊本県青年会館は解散となり、新法人の一般財団法人熊本県青年会館が設立されます。これまで財団法人熊本県青年会館には、当初は会館建設のご寄附を賜り、また、会館建設実現後の会館運営に対しましては、30年間にわたり県下各地の青年団や青年団OB各市町村各地域の皆様方のご支援とご協力に受け続けてきました。お陰を持ちまして、会館経営では近年における厳しい時期等にも遭遇しましたが、県下青年団や青年団体の拠点施設として、施設の提供や活動資金の助成を毎年継続して実施するなど、ゆっくりでしたが確実に歩み続けてまいりました。

これからも、財団法人熊本県会館の歩みを継承して、青少年団体活動の促進を行うことで、新しい会館の役割を発揮していくことが求められます。

これまでにご支援を賜りました全ての皆様方に、衷心より深く感謝しつつ、「ありがとうございます！！」と厚く御礼を申し上げながら、次年度、新法人としてスタートさせていただきます。